

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant(s): SUGIMURA, Naozumi  
Serial No.: Not yet assigned  
Filed: November 7, 2003  
Title: REPRODUCING APPARATUS, PROGRAM AND RECORDING  
MEDIUM  
Group: Not yet assigned

LETTER CLAIMING RIGHT OF PRIORITY

Commissioner for Patents  
P.O. Box 1450  
Alexandria, VA 22313-1450

November 7, 2003


Sir:

Under the provisions of 35 USC 119 and 37 CFR 1.55, the applicant(s) hereby claim(s) the right of priority based on Japanese Patent Application No.(s) 2003-191592, filed July 4, 2003.

A certified copy of said Japanese Application is attached.

Respectfully submitted,

ANTONELLI, TERRY, STOUT & KRAUS, LLP

  
\_\_\_\_\_  
Melvin Kraus  
Registration No. 22,466

MK/alb  
Attachment  
(703) 312-6600

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日                      2 0 0 3 年    7 月    4 日  
Date of Application:

出 願 番 号                      特 願 2 0 0 3 - 1 9 1 5 9 2  
Application Number:  
[ST. 10/C] :                      [ J P 2 0 0 3 - 1 9 1 5 9 2 ]

出      願      人                      株式会社日立製作所  
Applicant(s):

2 0 0 3 年 1 0 月    3 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫

出証番号    出証特 2 0 0 3 - 3 0 8 1 7 5 9

【書類名】 特許願

【整理番号】 D03003161A

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G11B 27/34

【発明者】

    【住所又は居所】 神奈川県横浜市戸塚区吉田町 2 9 2 番地 株式会社日立  
                          製作所デジタルメディア開発本部内

    【氏名】 杉村 直純

【特許出願人】

    【識別番号】 000005108

    【氏名又は名称】 株式会社 日立製作所

【代理人】

    【識別番号】 100075096

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 作田 康夫

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 013088

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 再生装置、プログラムおよび記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

情報が記録された記録媒体を再生する再生装置であって、  
記録媒体に記録された記録媒体識別情報を読み取る識別情報取得手段と、  
上記識別情報取得手段により取得した記録媒体識別情報を記憶する記憶手段と、  
記録媒体から情報を再生する再生手段とを有し、  
前記記憶手段に記憶された記録媒体識別情報に基いて、前記記録媒体に記録された情報を再生する再生装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の再生装置であって、  
上記記憶手段は脱着可能であることを特徴とする再生装置。

【請求項 3】

情報が記録された記録媒体に記録されるプログラムであって、  
再生装置内の記憶装置に記憶されている記録媒体識別情報を読み出し、  
上記記録媒体識別情報に応じて処理が分岐することを特徴とするプログラム。

【請求項 4】

画像情報が記録された記録媒体であって、  
再生装置で再生する際に実行されるプログラムが記録されており、  
上記プログラムは、再生装置内の記憶装置に記憶されている記録媒体識別情報を読み出し、上記記録媒体識別情報に応じて処理が分岐するように構成されているプログラムを記録したことを特徴とする記録媒体。

【請求項 5】

画像情報が記録された記録媒体を再生する再生装置であって、  
記録媒体を識別する記録媒体識別情報を記憶する記憶装置を有し、  
記録媒体上に記録されているプログラムを実行する際に、上記記憶装置に記憶している記録媒体識別情報を読み出し可能なことを特徴とする再生装置。

**【発明の詳細な説明】****【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、情報が記録された記録媒体を再生する技術にかかる。特に画像情報や音声情報などが記録された記録媒体を再生する技術に関する。

**【0002】****【従来の技術】**

いわゆるDVDに代表される光ディスクが広く普及している。これら光ディスクには、高画質な映像と音声を記録することが可能であり、映画やテレビ番組などを記録したものが幅広く販売されている。

**【0003】**

ところで、テレビ番組のシリーズものや映画の続編など、同じタイトルのコンテンツが1作目、2作目というように連続してDVDで発売されることがある。

**【0004】**

また、このような連続したタイトルのDVDでは、複数のDVDをひとまとめにして、いわゆるDVDボックスとして販売することがよくある。DVDボックスでは、本編の収録された各々のDVDに記録されたコンテンツ情報とは別に、付録として特典映像を記録したスペシャルDVDが付いてくることがある。

**【0005】****【発明が解決しようとする課題】**

上記従来技術においては、DVDボックスを購入したものはスペシャルDVDを入手できるのに対し、1枚ずつDVDを買い求めているユーザーは、スペシャルDVDを入手することは出来ない。

**【0006】**

そのため、どうしても入手したい場合、再度DVDボックスを買い直すしかなく、非常に悔しい思いをすることが多かった。

**【0007】**

本発明は、上記従来課題を解決することを目的とする。また、使い勝手の良い再生技術や再生システムを提供することを目的とする。

**【0008】****【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するために、本発明は、画像情報が記録された記録媒体を再生する再生装置であって、記録媒体に記録された記録媒体識別情報を読み取る識別情報取得手段と、上記識別情報取得手段により取得した記録媒体識別情報を記憶する記憶装置と、記録媒体から画像情報を再生する再生手段とを有し、再生時に、記録媒体から記録媒体識別情報を取得し、取得した記録媒体識別情報を上記記憶装置に記憶することを特徴とする再生装置を提供する。

**【0009】**

また、画像情報が記録された記録媒体であって、再生装置で再生する際に実行されるプログラムが記録されており、上記プログラムは、再生装置内の記憶装置に記憶されている記録媒体識別情報を読み出し、上記記録媒体識別情報に応じて処理が分岐するように構成されているプログラムを記録したことを特徴とする記録媒体を提供する。

**【0010】****【発明の実施の形態】**

以下、本発明の第1の実施形態について説明をする。

**【0011】**

本実施形態において、記録媒体は光ディスクであるものとして説明をするが、本発明は、光ディスクに限らず、磁気ディスク、磁気テープ、半導体メモリ、ハードディスク等、情報を記録する記録媒体を再生する技術に適用することができる。

**【0012】**

また、本実施形態において、光ディスクには、映画情報が記録されているものとして説明をするが、本発明は、映画情報に限らず音楽情報、ゲームソフト等のプログラムにも適用することができる。

**【0013】**

また、本実施形態において、映画情報は、1作目から5作目があるシリーズものであるとして説明をするが、本発明は、必ずしもシリーズものに限らず、複数

の記録媒体に記録された情報を再生する技術に適用できる。また、インターネットでダウンロードした情報を再生する技術などにも適用できる。

#### 【0014】

図1に、本実施形態にかかる再生装置のブロック図を示す。

#### 【0015】

図1中、光ディスク101には、映画情報、前記映画情報を再生するためのプログラム、ディスクID情報などが記録されている。ディスクID情報については後述する。また、102は光ディスクから信号を読み出す光ピックアップ、103は光ディスクから再生された信号に所定の復調処理を行いデータを再生する再生信号処理回路、104は再生されたデータを所定のタイミングで出力する出力制御部、105は光ディスクの回転速度や光ピックアップの位置制御を行うサーボ部、106はサーボ部および再生信号処理回路を制御するドライブ制御部、107は音声信号をデコードする音声デコーダ、108はデコードされた音声信号を出力する音声出力端子、109は映像信号をデコードする映像デコーダ、110はデコードされた映像信号を出力する映像出力端子、111は再生装置全体を制御するシステム制御部、112はリモコンからの信号を受信するリモコン受信部、113はメモリーである。

#### 【0016】

まず、ユーザーは、再生したい光ディスク101を再生装置にセットし、リモコン（図示せず）の再生ボタンを押す。リモコンからの信号は、リモコン受信部112で受信され、システム制御部111に入力される。システム制御部は、リモコンからの再生開始指令にしたがい、光ディスクの再生を開始する。

#### 【0017】

再生開始時には、再生装置によって自動的にライブラリ登録が行われる。ライブラリ登録は、光ディスク上に記録されているディスクの識別情報等（以下、ディスクIDと呼ぶ）を読み出し、その情報を記録しておくものである。ここでは、BCAを用いたディスクIDを用いてディスク識別する方法を例に取り説明する。

#### 【0018】

ここで、ライブラリ登録の方法について詳しく説明する。

【0019】

まず、1作目の映画情報が記録された記録媒体のライブラリ登録を説明する。

【0020】

図2は、光ディスクの外形図であり、201はBCA (Burst Cutting Area) と呼ばれるデータ記録領域である。

【0021】

通常、読み出し専用の光ディスクでは、ディスク上にピットと呼ばれる凹凸の有無でデータを記録しており、凸凹のついた原盤を用いてプレスすることにより、同じ情報を記録した光ディスクを大量に生産している。

【0022】

これに対し、BCA 201は、光ディスク101の通常のデータ領域の内側に、特殊なレーザー光線を用いて傷を付け、ディスク固有のIDを記録したものである。これにより、ディスク1枚ごとに異なったIDを記録することが可能である。BCAの情報は、光反射率の違いで読み出すことができ、従来の光ピックアップ102を用いて読み出すことが可能である。

【0023】

ここで、BCAには、ディスクに記録されているコンテンツ（内容）の作成メーカー、タイトル、シリーズ名、シリアル番号などの情報を記録しておく。

【0024】

ディスク再生時には、再生装置により、BCA 201を使ったディスクIDが読み出される。具体的には、再生処理開始時に、システム制御部111からドライブ制御部106に対し、BCAの読み出し指令が発効される。ドライブ制御部106は、このBCA読み出し指令に従い、サーボ105を制御して光ディスク101を所定の速度で回転させるとともに、光ピックアップ102を光ディスク中心付近の所定のBCA記録位置に移動させる。光ピックアップ102から読み出されたBCA情報は、再生信号処理回路103を介してドライブ制御部106に入力され、システム制御部111に戻される。

【0025】

システム制御部 111 は、読み出された B C A 情報から、再生対象である光ディスク 101 のメーカー I D、タイトル I D、シリーズ I D などを取り出す。取り出されたこれらの情報は、メモリー 113 にライブラリ情報として再生日時とともに記録する。

#### 【0026】

なお、同じディスク I D 情報が既にメモリに記録されている場合には、再度記録をしなくてもよい。このような構成にすることにより、メモリの容量を低減することができる。

#### 【0027】

また、ここでは、ディスク I D の検出には B C A 領域に書き込まれた情報を利用した例を挙げているが、これは限定されるものではなく、ディスクの判別が可能な情報であれば、その種類に関わらず利用することが出来る。例えば、ディスク上の所定セクターに書き込まれた情報を利用してもよいし、ディスク上にファイルとして書かれている情報の一部をディスク判別に用いてもよい。さらには、ディスク上にバーコードのような情報を書き込み、専用の読み取り部を設けて読み取り、制御部に入力することもできる。もちろん、半導体チップをディスク上に埋め込み、これから情報を読み出しディスク I D として利用してもよい。また、外部から I D 情報を入力される構成としてもよい。

#### 【0028】

図 3 に、メモリー上に記録されるライブラリ情報の一例を示す。

#### 【0029】

図 3 中、301 はメーカー I D、302 はタイトル I D、303 はシリーズ I D、304 は再生日時、305 は再生終了位置である。

このライブラリ情報は、ユーザーが再生を行ったディスクの情報を記録しているものであり、これを用いることにより、ユーザーがどのようなディスクを再生したか、最後に再生を行ったのはいつか、ディスクのどの位置まで再生を行ったかなどの情報を得ることが出来る。

#### 【0030】

なお、ここでは、1 作目の映画情報が記録されたディスクを再生しているので

、シリーズIDは「1」となる。

**【0031】**

同様に、2作目の映画情報が記録されたディスクを再生する場合には、シリーズIDは「2」となる。

**【0032】**

次に、上記ライブラリ登録完了後、どのようにしてディスクID情報を用いるかについて説明をする。

**【0033】**

例えば、1作目の映画情報が記録されたディスクと2作目の映画情報が記録されたディスクのライブラリ登録が完了したあとで、5作目の映画情報が記録されたディスクを再生する場合を考える。そして、5作目のディスクには、ボーナス情報と1作目から5作目までの映画のライブラリ登録がされているかを判断するためのプログラムが記録されているものとする。

**【0034】**

まず、光ディスク101中からデータの読み出しが行われ、ライブラリ登録が行われる。即ち、シリーズIDの「5」が追加される。

**【0035】**

次に、光ディスク101上に記録されているファイルを識別するため、ファイル管理情報が読み出される。具体的には、所定のセクターに書かれているアンカー情報を読み出してファイル管理情報の記録位置を求め、ファイル管理情報を読み出す。ファイル管理情報の記録方法は、例えば、UDF (Universal Disc Format) に代表されるファイルシステムを用いればよい。ファイルシステムを用いることにより、ディスク上に記録された情報をそれぞれファイルとして扱うことが出来、ファイル識別子(ファイル名)により、読み出すファイルを指定することが出来る。なお、ライブラリ登録の前に、ファイル管理情報を読み出す構成としても良い。

**【0036】**

光ディスク101を再生する際には、最初に実行すべきメニュー表示プログラムの記録されたファイル識別子が規定されており、そのファイルを読み出して実

行することにより、メニュー表示プログラムが動作する。

#### 【0037】

ここで、メニュー表示プログラムの具体的な動作を説明する。

#### 【0038】

図4は、メニュー表示プログラムの動作を表すフローチャートである。

図4中、S1は開始ステップ、S2はライブラリー読み出しステップ、S3はディスク判別ステップ、S4は通常メニュー表示ステップ、S5はボーナスメニュー表示ステップである。

まず、メニュー表示プログラムが開始（S1）されると、ライブラリー読み出しステップ（S2）で、ライブラリー情報の読み出しが行われる。具体的には、システム制御部111によりメモリー113中に記録されているライブラリー情報が順次読み出される。ライブラリー情報には、図3に示したようにメーカーID、タイトルID、シリーズID、再生日時、再生終了位置などの情報が記録されている。ここでは、シリーズIDは、「1」、「2」、「5」が記録されている。

#### 【0039】

システム制御部111は、読み出したライブラリー情報中に、指定されたディスクが含まれているかを判断する（S3）。即ち、シリーズIDが「1」から「5」まであるかを判断する。

#### 【0040】

ここで、指定されたディスクがすべて含まれている場合には、ユーザーがすべてのディスクを有していると判断し、ボーナスメニュー表示動作を行う（S5）。

#### 【0041】

しかし、ここでは、読み出したライブラリー情報中に、指定されたディスクが含まれていないので、ユーザーが、指定されたディスクを所有していないと判断し、通常のメニュー表示を行う（S4）。

#### 【0042】

ここで、表示するメニュー画面は、システム制御部111より映像デコーダ1

09中の画像メモリーへ情報を書き込むことにより表示が行われる。図1の実施例では、映像デコーダ中のメモリーを用いてメニュー画面表示の機能実現したが、メニュー表示画面用のメモリーを別に設け、映像デコーダから出力される映像信号と切り替えて出力するように構成してもよいし、映像デコーダの信号に重ね合わせて表示されるように構成してもよい。

#### 【0043】

図5に、通常メニュー表示とボーナスメニュー表示の一例を示す。

図5中、上に書かれた画面が通常メニュー表示の例であり、下に書かれた画面がボーナスメニュー表示の例である。

#### 【0044】

光ディスクを再生する際、ライブラリ情報中に、所定の映画シリーズの1作目、2作目および5作目が存在するので、ユーザーに対して図5の上部に示したような通常メニューを表示する。この場合、ユーザーは3作目と4作目を有していないため、所有していないこれらタイトルの部分には×印が表示されており、ユーザーに対してその旨をそれとなく提示する。1作目から5作目までをすべて有しているユーザーのみにボーナス映像の選択を可能とするため、501の如くボーナス映像を選択するメニューボタンには何も表示しない。また、このボタンは操作できないようにする。

#### 【0045】

一方、その後、2作目と3作目のディスクのライブラリ登録が行われ、1作目から5作目までのディスクIDがメモリーに記録されている場合、ライブラリ情報中に、すべての作品の情報が記録されているので、これを判断し、ボーナスメニューの表示を行う。具体的には、図5の下部に示した通り、ボーナス映像表示ボタン502が選択可能となっており、ユーザー操作によりボーナス映像の表示が可能である。ユーザーは、表示されたメニュー画面にしたがい、再生したいプログラムを選択し、再生を行えばよい。

#### 【0046】

ここで、上記のライブラリ情報の判別において、レンタル用のディスクのIDと販売用のディスクのIDを分けることにより、実際に購入したユーザーにのみ

ボーナス映像を提供することも可能となる。

【0047】

また、上記のライブラリ情報の判別に、ライブラリ上の再生時刻による判断を加え、最近1年以内に再生していることを条件にすることにより、ボーナス情報の再生時期を制限することができる。

【0048】

また、特定のディスクが再生されていないことを判断の基準に加えることで、特定のディスクが再生されていないことを表示されることができる。

【0049】

また、ライブラリ情報からユーザーの嗜好を推測し、ユーザーの好みそうなメニューを優先的に表示するなどの応用も可能である。

【0050】

また、1作目から5作目と行った、シリーズものに限らず、AとBとCの情報が記録された場合に、ボーナス情報を再生する構成にしても良い。

【0051】

また、シリーズIDは、「1」、「2」、「3」などには限られない。

【0052】

また、上記再生装置において、ライブラリ情報を記憶しているメモリー113は、再生装置に内蔵されているものとして説明したが、このメモリーをメモリーカードの如く取り外し可能とすることも可能である。メモリーカードとすることで、再生装置を買い換えたり、他の場所で視聴した場合にも、ライブラリ情報の蓄積や利用を行うことが出来る。もちろん、メモリーカードを無線などを使用した非接触のメモリーカードとしても構わない。このメモリーカードをクレジットカードや電子マネーのような代金支払い機能と兼用することで、有料プログラムの視聴に対応したりと様々な応用が可能である。

【0053】

また、上記のように、所定のシリーズが揃った場合に、ネットワークを介してボーナスコンテンツを取得できるようにしてもよい。この場合は、ディスクにボーナス情報が記録されていなくて良い。

**【0054】**

本実施形態では、プログラムや記録媒体を用いることにより、ユーザーの再生した記録媒体に応じて再生可能なコンテンツを選択することが出来る。したがって、特定の情報を所有しているユーザーに特典情報などを提供でき、例えば、連続したシリーズの記録媒体を一つずつ購入したユーザーも、DVDボックスのようなセットで購入したユーザーも分け隔てなく特典情報を入手することが出来る。

**【0055】**

次に、第2の実施形態について説明をする。

**【0056】**

実施例1では、再生装置に内蔵したメモリー113を用いてライブラリを保存し、メニュー表示を選択する再生装置を示した。

**【0057】**

ところで、インターネットをはじめとするネットワークの発達により、様々な機器でネットワークを利用したサービスが行われている。

**【0058】**

図6は、本実施形態にかかる再生装置をネットワーク接続する際の構成を示したブロック図である。

**【0059】**

図6中、101から112の記号は図1に示したものと同等である。114はネットワークである。

**【0060】**

図7は、ネットワークに接続されたサーバー側のブロック図である。

**【0061】**

図7中、114はネットワーク、701は制御装置、702は記憶装置である。

**【0062】**

図6に示した再生装置は、ネットワーク114を介して制御装置701に接続されている。

**【0063】**

再生装置にて光ディスクの再生を行うと、実施例1に示した再生装置と同様に、光ディスク101上からディスクIDが読み出される。システム制御部111は、ネットワークを介して接続されている制御装置701と所定の認証処理を行ない、ネットワークの接続を行う。このとき、再生装置の識別のために、再生装置固有の装置IDを用いる。認証処理の終了後、システム制御部111は、ネットワーク114を介して上記のディスクIDを制御装置701に送信する。制御装置701は、再生装置から送られてきた装置IDとディスクIDを合わせて記憶装置702上に記憶する。

**【0064】**

これにより、実施例1でメモリーにライブラリ情報を記録したのと同じように、記憶装置702上にライブラリ情報を記録することが出来る。

**【0065】**

次に、メニュー表示プログラムにより表示メニューの選択を行う際の動作を説明する。

**【0066】**

システム制御部111は、光ディスク101上からメニュープログラムを読み出し、プログラムにしたがって処理を行う。ここで、メニュープログラムの動作は、実施例1と同じく、図4に示したフローチャートのものである。

**【0067】**

メニュープログラムが動作を開始すると（S1）、まずライブラリーの読み出しを行う（S2）。ここで、ライブラリー情報は、ネットワーク上のサーバーに記録されているので、再生装置中のシステム制御部111はネットワーク114を介してサーバーへの接続を行い、制御装置701との認証作業を行う。システム制御部111と制御装置701とが認証を完了すると、再生装置内のシステム制御部111は、制御装置701に対してライブラリ情報の送信を要求する。

**【0068】**

制御装置701は、システム制御部111からのライブラリ送信要求を受信すると、記憶装置702上から、再生装置に対応したライブラリ情報を読み出し、

ネットワーク 114 を介して送信する。ここで、サーバーは、複数の再生装置に対応したライブラリを記録しているが、再生装置の装置 ID を使用することで、ライブラリ情報要求元の再生装置を識別できるので、この装置 ID に対応したライブラリ情報を読み出して送信すればよい。

#### 【0069】

再生装置では、サーバーから送信されたライブラリ情報を元に、指定ディスクがライブラリ上に存在するかどうかを判断し（S3）、その判断に応じて通常メニューの表示（S4）ないしボーナスメニューの表示（S5）を選択すればよい。

#### 【0070】

選択されるメニューの画面やその後の動作は、第1の実施形態で示した再生装置と同様である。

#### 【0071】

以上のようにして、ネットワークを利用したライブラリの保存やメニュー画面の選択動作などを行うことが出来る。

#### 【0072】

ここで、ネットワークを介してサーバーからライブラリ情報を受信する例を挙げて説明したが、これは各種の変形が可能である。

例えば、メニュー表示画面を光ディスク上に記録しておくのではなく、再生時にサーバー側でメニュー画面の情報を生成してネットワーク経由で再生装置に送信するように構成してもよい。サーバー側では、ライブラリ内に指定ディスクがある場合に、ボーナスメニューを含んだ画面情報を作成して送信し、再生装置では、サーバー側から送られてきたボーナスメニュー画面を表示する。サーバー内のライブラリ情報に指定されたディスクが存在していない場合には、ボーナスメニューを含まない画面情報を作成して送信し、再生装置では、サーバー側から送られてきた通常メニュー画面を表示する。

#### 【0073】

ユーザーは、上記の制御により表示されたメニュー画面を用いて再生するプログラムを選択する。

**【0074】**

以上のような処理により、ユーザーが視聴したディスクの有無により表示されるメニューを切り替えて、条件によりボーナスメニューの表示を可能とすることができる。

本実施形態においても、第1の実施形態と同様にレンタルと販売用のディスクを区別したり、最近1年以内に再生したディスクのみを判断対象とするなど様々な変形が可能である。

**【0075】****【発明の効果】**

以上、本発明は、使い勝手の良い再生技術や再生システムを提供することができる。

**【図面の簡単な説明】**

**【図1】** 再生装置のブロック図

**【図2】** 光ディスクの外形図

**【図3】** ライブラリ情報の内容

**【図4】** プログラムの動作を示すフローチャート

**【図5】** メニュー表示画面

**【図6】** 再生装置のブロック図

**【図7】** ネットワークを介したサーバ

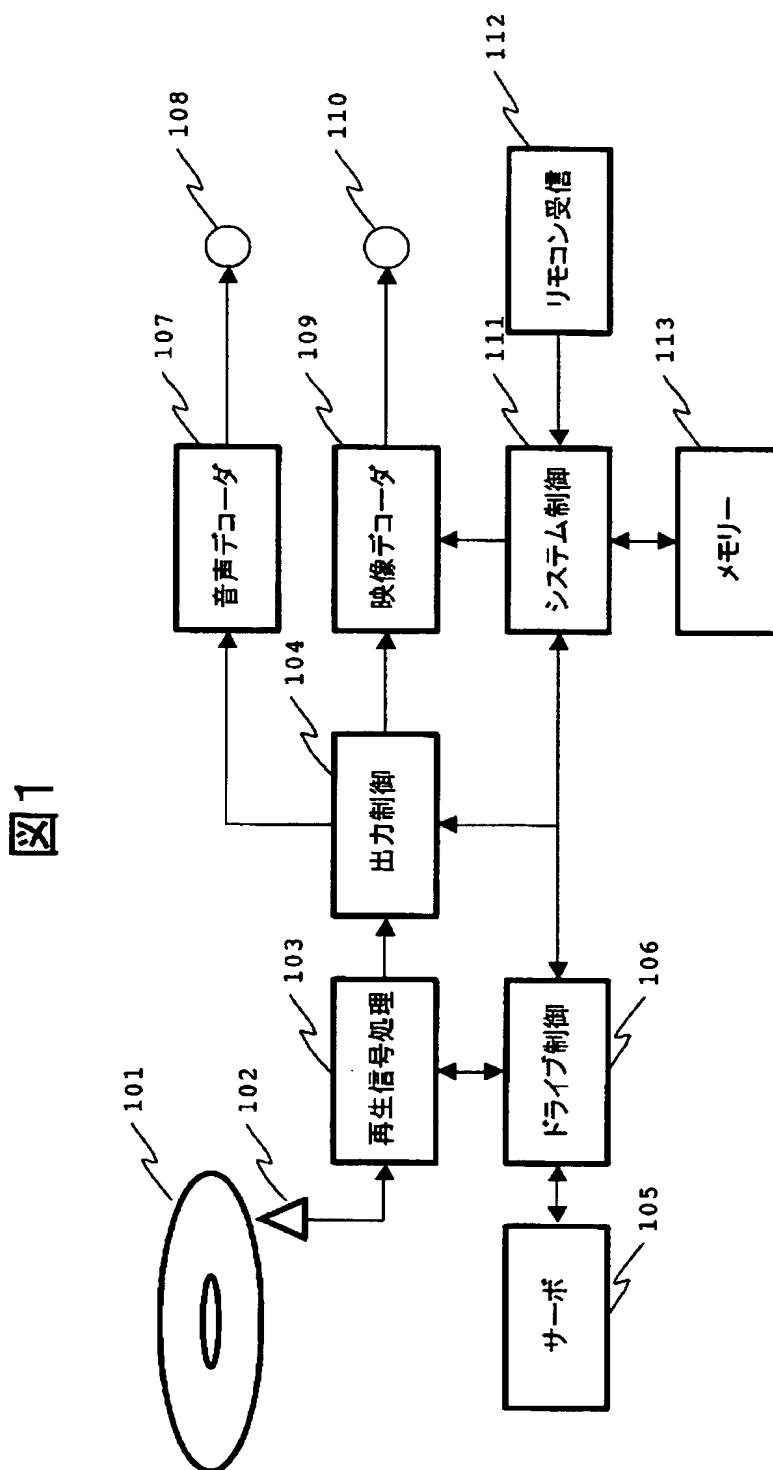
**【符号の説明】**

101…光ディスク、102…光ピックアップ、103…再生信号処理回路、104…出力制御部、105…サーボ部、106…ドライブ制御部、107…音声デコーダ、108…音声出力端子、109…映像デコーダ、110…音声出力端子、111…システム制御部、112…リモコン受信部、113…メモリー、114…ネットワーク、201…BCA記録部、301…メーカーID、302…タイトルID、303…シリーズID、304…再生日時、305…再生終了位置、501…ボーナス映像未表示画面、502…ボーナス映像表示画面、701…制御装置、702…記憶装置、S1…開始ステップ、S2…ライブラリ読み出しステップ、S3…ライブラリ内容判別ステップ、S4…通常メニュー表示ステ

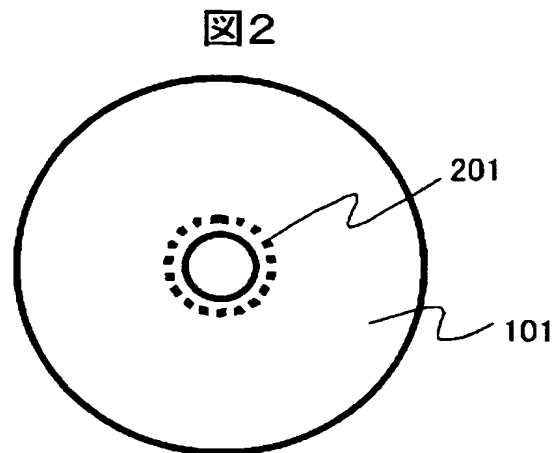
ップ、S 5 …ボーナスメニュー表示ステップ

【書類名】 図面

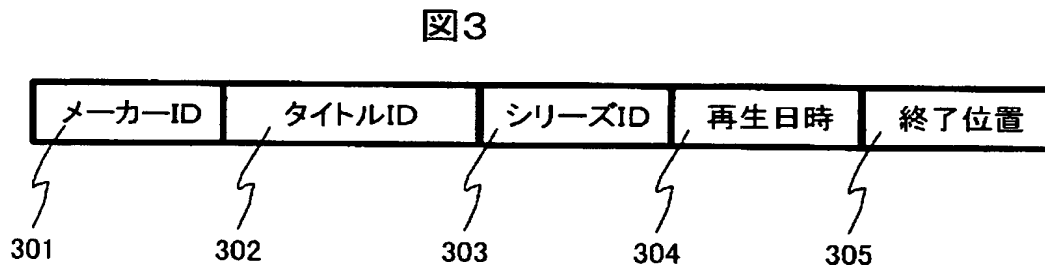
【図 1】



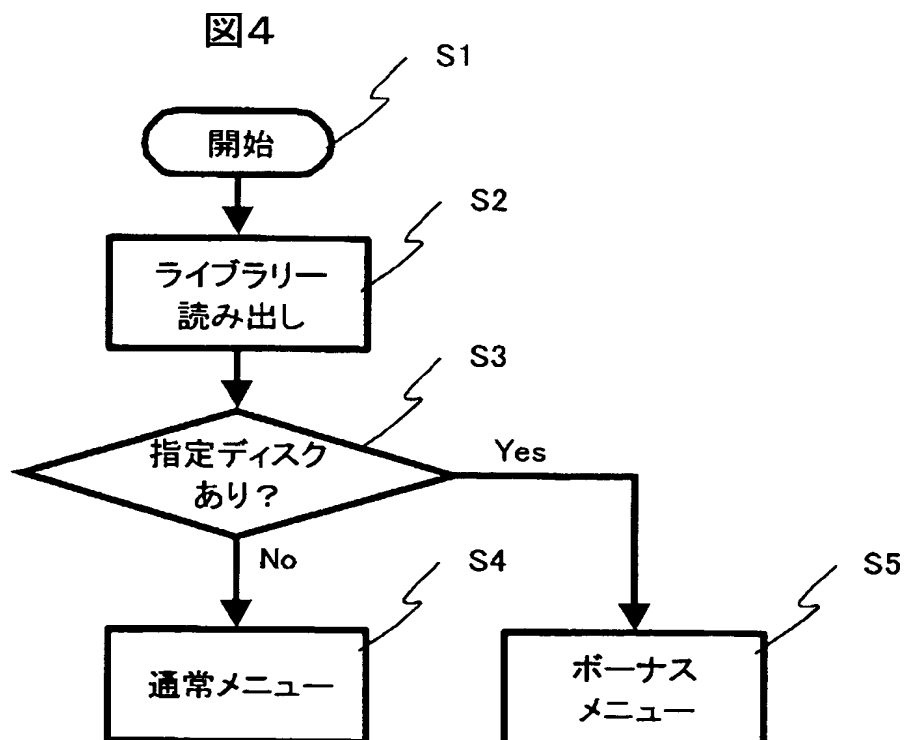
【図 2】



【図 3】

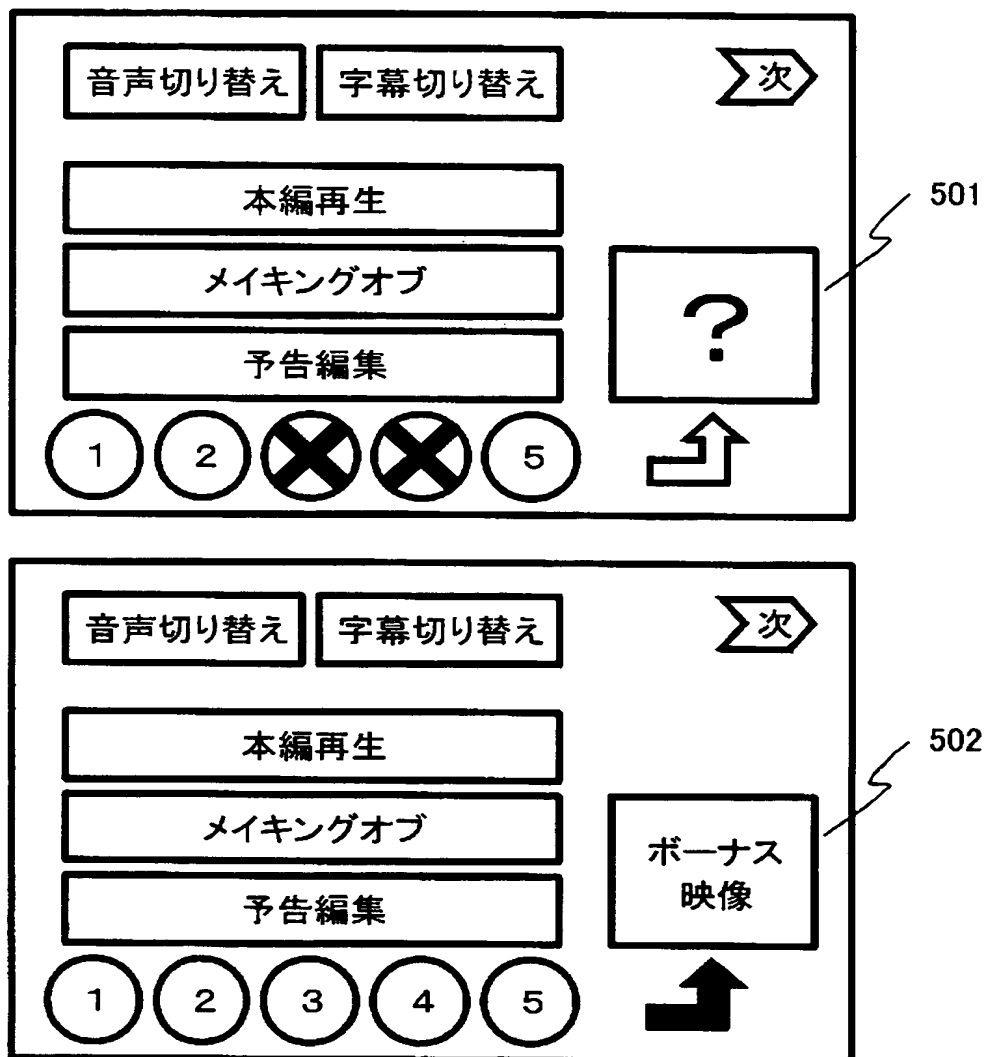


【図 4】

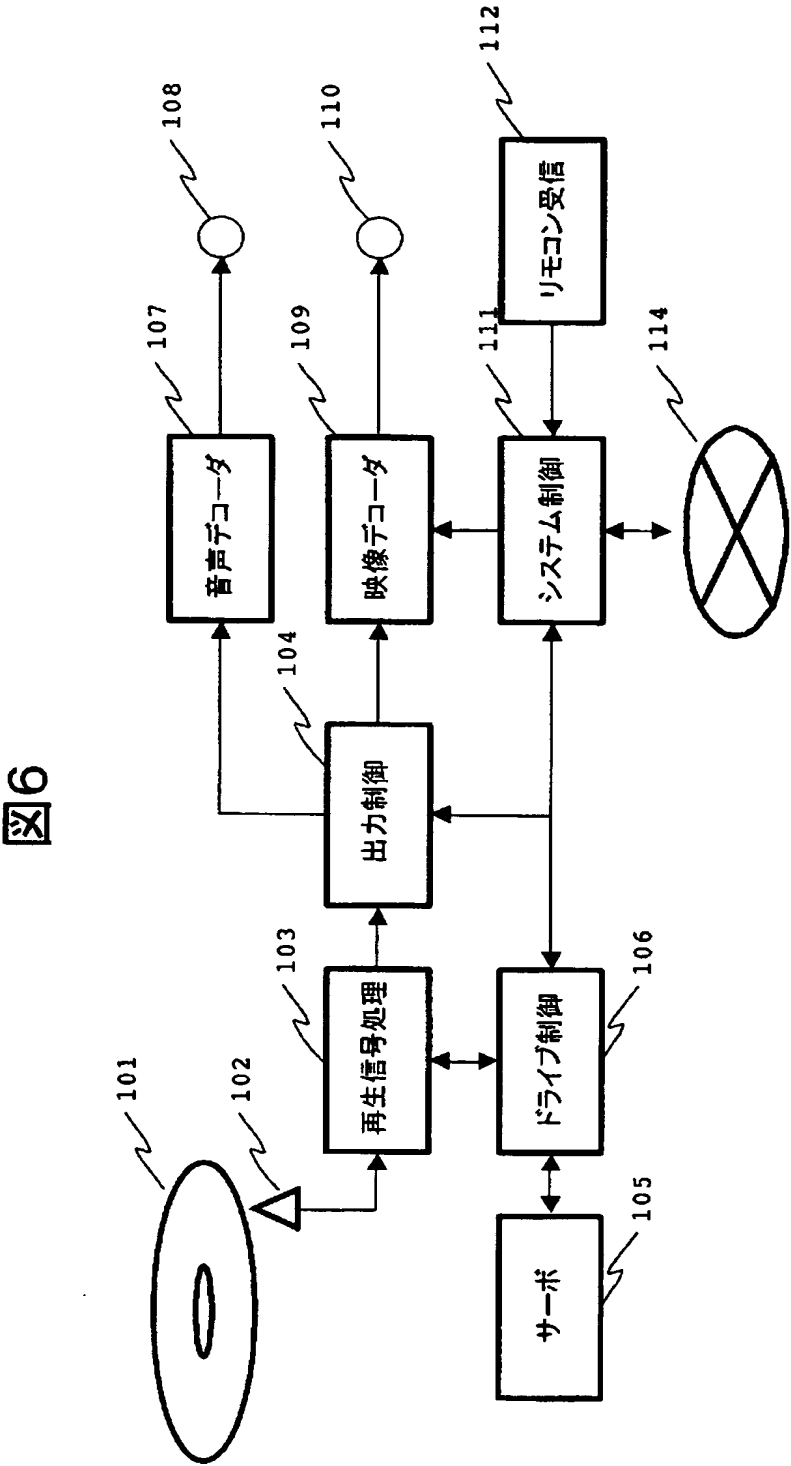


【図 5】

図 5

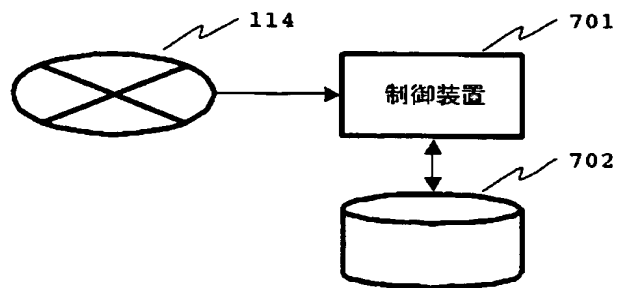


【図 6】



【図 7】

図 7



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】

複数枚のDVDがセットになったDVDボックスを購入した場合、付録として特典映像の記録されたスペシャルディスクが付いてくることが多い。しかしながら、DVDをバラバラに購入した場合、スペシャルディスクを手に入れることが出来なかった。

【解決手段】

再生装置に、記録媒体に記録された記録媒体識別情報を読み取る識別情報取得手段と、上記識別情報取得手段により取得した記録媒体識別情報を記憶する記憶装置とを設け、再生した記録媒体の情報をライブラリとして登録しておく。再生時には、このライブラリ情報を使用して、特典映像の再生の可否を判断する。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 1 9 1 5 9 2
受付番号	5 0 3 0 1 1 1 4 0 8 8
書類名	特許願
担当官	第八担当上席 0 0 9 7
作成日	平成 1 5 年 7 月 7 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】 平成 15 年 7 月 4 日

特願 2 0 0 3 - 1 9 1 5 9 2

出 願 人 履 歷 情 報

識別番号

[ 0 0 0 0 0 5 1 0 8 ]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 3 1 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都千代田区神田駿河台 4 丁目 6 番地

氏 名

株式会社日立製作所